

学校評価の改善について

滋賀県立湖南農業高等学校

① 学校評価のこれまでの取組状況等について

本校では、10月に教職員に対して学校評価に係るアンケート調査を実施し、その結果に基づく評価を公表している。

また、12月には生徒、1月には保護者や学校運営協議会委員長、再度教職員に対して学校評価に係るアンケート調査を実施した。学校関係者評価として本校の学校運営協議会委員にも最終評価をしていただいている。

② すでに講じた改善策について

項目により保護者評価、生徒評価においてBやCの評価も見受けられる。学校関係者評価では、「このことは真摯に受け止め、次年度以降の学校改善に努めることが、地域に根ざした開かれた学校づくりにつながる」と意見をいただいている。

「6. 学校図書館」の授業等での図書館利用に関する項目では、生徒評価・教員評価においては「C」が見受けられる。定期的な図書館だよりの発行をはじめ、蔵書検索サイトの紹介、生徒図書委員が作成したポップの展示、生徒が作成した作品を収集するデジタル資料館の開設等、図書館の利用促進を促すべく司書を中心に改善を進めているところである。

「2. 学習指導」の授業のわかりやすさに関する項目、および「3. 生徒指導」の基本的生活習慣確立への指導やいじめに関する項目、「4. 進路指導」の学年に応じた進路指導に関する項目、「8. 人権教育」の項目について、生徒評価では「B」であったが、保護者・学校運営協議委員の評価で「C」となった。本校では、学習面において苦手意識のある生徒も「もっとわかるようになりたい」という思いがあり、基礎・基本の定着に向けての授業改善に取り組んでいくことが重要である。基本的生活習慣確立への指導に関しては、「生徒たちが自分自身のために時間を守れる」ように、そして、いじめに関しては、学校行事をはじめ授業等の中でも良好な人間関係の構築を進めていくことで、「学ぶ意欲の湧く学校、安全で楽しい学校づくり」について意識的に各部署で方策を講じていくよう確認した。

また、進路指導については、今年度から卒業生による進路講演会を実施し、生徒にとって進路を考える際のイメージが持てるよう設定している。

③ 今後の方向性等について

「6. 学校図書館」については、引き続き、図書館の様々な取り組みが生徒や保護者に伝わるように通信を個人配付し、保護者への図書館活用状況の見える化に努める。学校全体で取り組んでいる朝読書週間の定期的な実施を継続し、さらに充実させていくこと、授業での積極的な図書館活用をさらに推進していくことはもちろん、授業での利用を通

じて情報リテラシーを身に着けられるようなマニュアルの作成、授業での活用提案を進めていく。

「３．生徒指導」についても校則の改訂や指導方法の改善等が急務な課題となっている。学習指導や生徒指導において、生徒の教育活動に対する充実感や達成感が、生徒自身に充分感じられていない傾向が出ている。今後は、生徒自身が成長を感じ取れるよう、より丁寧な教育実践を目指して、教職員一丸となって特色ある学校づくりに努めていく。

「８．人権教育」の評価は保護者・学校評議員評価においては「Ｃ」となった。人権ＬＨＲの時間だけでなく、毎日の学校生活の土台となる人権教育が揺らいでいるのではないかという評価であると受け止め、様々な人権課題への研修はもちろんのこと、生徒や同僚等への対応について教職員自らが振り返り、人権感覚を向上する機会を作ることが急務である。